

# 景気ウォッチャー調査

## Economy Watchers Survey

平成 29 年 5 月調査結果

平成 29 年 6 月 8 日



内閣府政策統括官  
(経済財政分析担当)

## 今月の動き (2017年5月)

5月の現状判断D I (季節調整値)は、前月差 0.5 ポイント上昇の 48.6 となった。

家計動向関連D Iは、飲食関連等が減少したものの、住宅関連等が上昇したことから横ばいとなった。企業動向関連D Iは、非製造業等が上昇したことから上昇した。雇用関連D Iについては、低下した。

5月の先行き判断D I (季節調整値)は、前月差 0.8 ポイント上昇の 49.6 となった。

家計動向関連D I、企業動向関連D I、雇用関連D Iが上昇した。

なお、原数値で見ると、現状判断D Iは前月差 0.3 ポイント低下の 50.1 となり、先行き判断D Iは前月差 1.1 ポイント上昇の 51.5 となった。

今回の調査結果に示された景気ウォッチャーの見方は、「持ち直しが続いている。先行きについては、人手不足に対する懸念もある一方、引き続き受注や設備投資等への期待がみられる」とまとめられる。

## 目 次

調査の概要	2
利用上の注意	4
D I の算出方法	4
調査結果	5
I . 全国の動向	6
1 . 景気の現状判断 D I ( 季節調整値 )	6
2 . 景気の先行き判断 D I ( 季節調整値 )	7
( 参考 ) 景気の現状判断 D I ・先行き判断 D I ( 原数値 )	8
II . 各地域の動向	9
1 . 景気の現状判断 D I ( 季節調整値 )	9
2 . 景気の先行き判断 D I ( 季節調整値 )	9
( 参考 ) 景気の現状判断 D I ・先行き判断 D I ( 原数値 )	10
III . 景気判断理由の概要	11
( 参考 1 ) 景気の現状水準判断 D I	24
( 参考 2 ) 区分変更に伴う参考 D I 等	26

## 調査の概要

### 1. 調査の目的

地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的とする。

### 2. 調査の範囲

#### (1) 対象地域

北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の11地域を対象とする。各地域に含まれる都道府県は以下のとおりである。(なお、平成12年1月調査の対象地域は、北海道、東北、東海、近畿、九州の5地域、平成12年2月調査から9月調査までの対象地域は、これら5地域に関東を加えた6地域である。)

地域	都道府県	
北海道	北海道	
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟	
関東	北関東	茨城、栃木、群馬、山梨、長野
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	
北陸	富山、石川、福井	
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
四国	徳島、香川、愛媛、高知	
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
沖縄	沖縄	
全国	上記の計	

平成28年4月調査より、南関東のうち東京都分の別掲を開始。

平成28年10月調査より、「甲信越」(新潟、山梨、長野)、「東北(新潟除く)」、「北関東(山梨、長野除く)」を参考掲載。

#### (2) 調査客体

家計動向、企業動向、雇用等、代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種の適当な職種の中から選定した2,050人を調査客体とする。調査客体の地域別、分野別の構成については、「III. 景気ウォッチャー(調査客体)の地域別・分野別構成(36頁)」を参照のこと。

### 3. 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断(水準)

### 4. 調査期日及び期間

調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月25日から月末である。

## 5. 調査機関及び系統

本調査業務は、内閣府が主管し、下記の「取りまとめ調査機関」に委託して実施している。各調査対象地域については、地域ごとの調査を実施する「地域別調査機関」が担当しており、「取りまとめ調査機関」において地域ごとの調査結果を集計・分析している。

(取りまとめ調査機関)		三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
(地域別調査機関)	北海道	株式会社 北海道二十一世紀総合研究所
	東北	公益財団法人 東北活性化研究センター
	北関東	株式会社 日本経済研究所
	南関東	株式会社 日本経済研究所
	東海	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
	北陸	一般財団法人 北陸経済研究所
	近畿	りそな総合研究所株式会社
	中国	公益社団法人 中国地方総合研究センター
	四国	四国経済連合会
	九州	公益財団法人 九州経済調査協会
	沖縄	一般財団法人 南西地域産業活性化センター

## 6. 有効回答率

地域	調査客体	有効回答客体	有効回答率	地域	調査客体	有効回答客体	有効回答率
北海道	130人	115人	88.5%	近畿	290人	252人	86.9%
東北	210人	194人	92.4%	中国	170人	167人	98.2%
北関東	200人	187人	93.5%	四国	110人	90人	81.8%
南関東	330人	312人	94.5%	九州	210人	184人	87.6%
東京都	149人	143人	96.0%	沖縄	50人	36人	72.0%
東海	250人	229人	91.6%	全国	2,050人	1,860人	90.7%
北陸	100人	94人	94.0%				

### (参考) 調査客体数及び対象地域の推移

調査開始(平成12年1月)以降の調査客体数及び対象地域の推移は以下のとおり。

- 平成12年1月調査は500人(北海道、東北、東海、近畿、九州)
- 平成12年2～9月調査は600人(北海道、東北、関東、東海、近畿、九州)
- 平成12年10月～平成13年7月調査は1,500人(全国11地域)
- 平成13年8月調査以降は2,050人(全国11地域)

### 利用上の注意

1. 分野別の表記における「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、企業動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、雇用関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断を示す。
2. 表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しない場合がある。

### D I の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、D Iを算出している。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

## 調査結果

### I. 全国の動向

1. 景気の現状判断D I (季節調整値)
2. 景気の先行き判断D I (季節調整値)  
(参考) 景気の現状判断D I・先行き判断D I (原数値)

### II. 各地域の動向

1. 景気の現状判断D I (季節調整値)
2. 景気の先行き判断D I (季節調整値)  
(参考) 景気の現状判断D I・先行き判断D I (原数値)

### III. 景気判断理由の概要

- (参考1) 景気の現状水準判断D I  
(参考2) 区分変更に伴う参考D I等

(備考)

1. 「III. 景気判断理由の概要 全国(11頁)は、「現状」、「先行き」ごとに区分した3分野(「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」)に該当する地域の特徴的な判断理由を選択し、5つの回答区分(「良」、「やや良」、「不変」、「やや悪」、「悪」)ごとに判断が良い順に掲載した。
2. 「現状判断の理由別(着目点別)回答者数の推移」(12頁)は、全国の「現状判断」の回答のうち3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数の多い上位3区分(雇用関連は上位2区分)の判断理由として特に着目した点について、直近3か月分の回答者数を掲載した。
3. 13~23頁は、各地域の景気判断理由の要約である。そのうち、「現状」欄は、地域の「現状判断」の回答のうち、3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数が多かった上位3区分(雇用関連は上位2区分)を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それら上位回答区分の中における代表的な回答である。「その他の特徴コメント」欄は、「判断の理由」欄に掲載されたもの以外で、特徴と考えられるコメントを掲載した。また、「先行き」欄は3分野それぞれについて、5つ回答区分の中で回答者数が多かった上位2区分(雇用関連は上位1区分)を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それらにおける代表的な回答である。なお、「その他の特徴コメント」欄は「現状」と同様である。

# I. 全国の動向

## 1. 景気の現状判断D I（季節調整値）

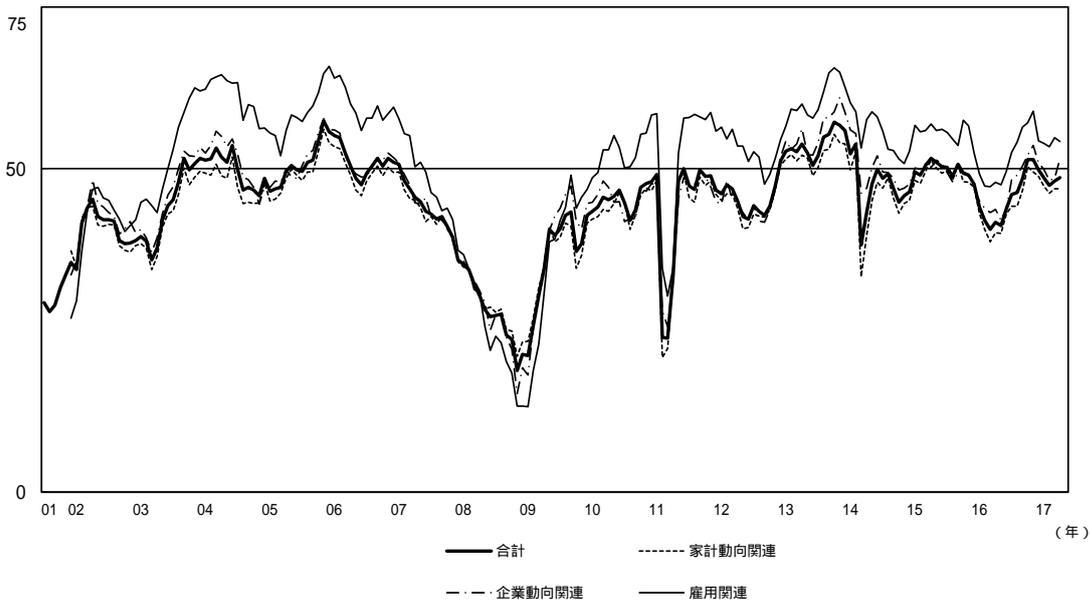
3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D Iは、48.6となった。雇用関連のD Iは低下し、家計動向関連のD Iは変わらなかったものの、企業動向関連のD Iが上昇したことから、前月を0.5ポイント上回り、2か月連続の増加となった。

図表1 景気の現状判断D I（季節調整値）

(D I)	年	2016	2017					
	月	12	1	2	3	4	5	(前月差)
合計		51.4	49.8	48.6	47.4	48.1	48.6	(0.5)
家計動向関連		49.5	48.8	47.3	46.2	46.9	46.9	(0.0)
小売関連		48.8	49.0	45.9	44.9	45.3	45.1	(-0.2)
飲食関連		50.8	48.7	47.3	44.1	47.4	46.8	(-0.6)
サービス関連		50.4	48.5	49.8	49.8	49.9	50.2	(0.3)
住宅関連		49.9	48.9	48.5	43.7	46.6	47.8	(1.2)
企業動向関連		53.6	50.9	49.9	48.2	48.5	51.5	(3.0)
製造業		53.9	50.5	48.8	47.7	48.2	51.0	(2.8)
非製造業		53.6	51.6	51.0	48.7	48.9	52.0	(3.1)
雇用関連		58.9	54.3	53.9	53.4	54.8	54.2	(-0.6)

(D I)

図表2 景気の現状判断D I（季節調整値）



## 2. 景気の先行き判断D I (季節調整値)

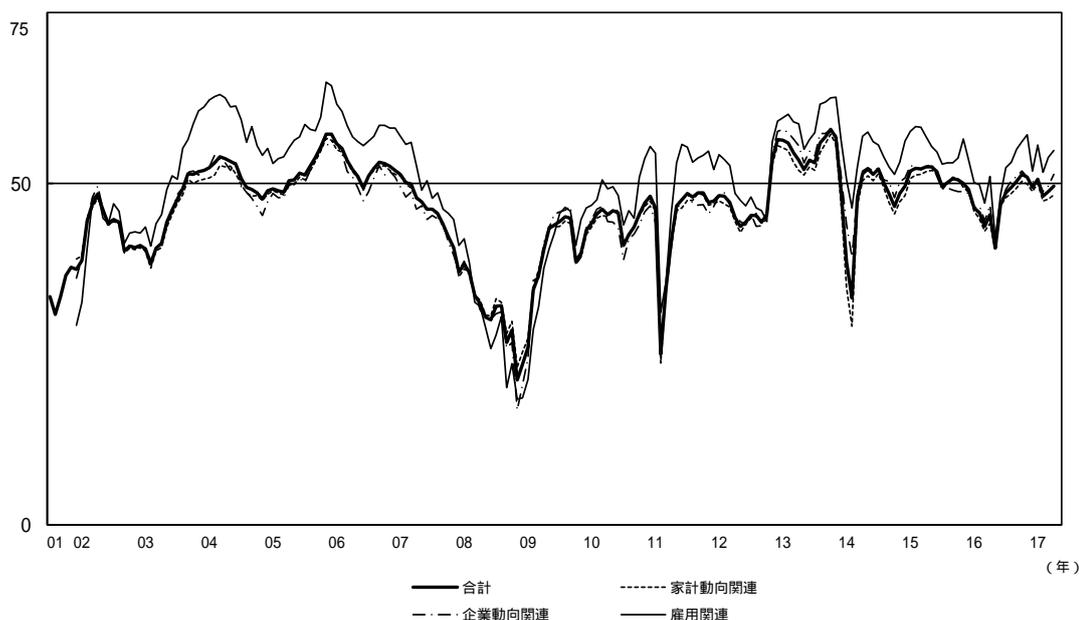
2～3か月先の景気の先行きに対する判断D Iは、49.6 となった。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連のすべてのD Iが上昇したことから、前月を0.8ポイント上回った。

図表3 景気の先行き判断D I (季節調整値)

(D I)	年	2016	2017					
	月	12	1	2	3	4	5	(前月差)
合計		50.9	49.4	50.6	48.1	48.8	49.6	(0.8)
家計動向関連		49.9	48.8	50.0	47.4	47.7	48.3	(0.6)
小売関連		49.8	48.2	49.3	45.6	46.9	47.6	(0.7)
飲食関連		48.2	50.6	50.3	45.3	44.8	48.4	(3.6)
サービス関連		51.1	50.3	51.6	51.3	50.2	49.7	(-0.5)
住宅関連		47.6	45.2	47.8	47.2	46.7	48.3	(1.6)
企業動向関連		50.9	50.2	50.5	48.8	49.6	51.3	(1.7)
製造業		51.9	51.6	49.8	49.3	50.1	51.7	(1.6)
非製造業		50.2	49.1	50.7	48.2	49.7	51.3	(1.6)
雇用関連		57.1	51.8	55.6	51.6	53.8	54.8	(1.0)

(D I)

図表4 景気の先行き判断D I (季節調整値)



(参考) 景気の現状判断D I・先行き判断D I (原数値)

(現状判断)

図表5 景気の現状判断D I

(D I)	年	2016	2017				
	月	12	1	2	3	4	5
合計		51.2	48.6	48.5	50.6	50.4	50.1
家計動向関連		49.6	47.0	46.6	49.7	49.5	48.9
小売関連		48.4	47.2	45.9	48.0	47.7	47.9
飲食関連		53.4	46.2	44.6	49.7	51.9	48.6
サービス関連		51.0	46.6	48.0	53.4	52.1	50.8
住宅関連		48.4	48.1	49.4	47.1	50.3	49.3
企業動向関連		53.4	49.7	50.5	50.6	50.3	51.2
製造業		53.9	49.6	49.7	50.4	49.9	49.9
非製造業		53.1	50.1	51.3	51.0	50.8	52.4
雇用関連		57.6	56.8	56.3	56.7	56.3	55.5

図表6 構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	D I
2017	3	2.0%	21.7%	56.5%	16.2%	3.6%	50.6
	4	1.9%	22.0%	55.7%	16.3%	4.1%	50.4
	5	2.2%	21.0%	55.8%	17.2%	3.9%	50.1

(先行き判断)

図表7 景気の先行き判断D I

(D I)	年	2016	2017				
	月	12	1	2	3	4	5
合計		49.0	49.7	51.5	49.0	50.4	51.5
家計動向関連		47.6	48.9	51.2	48.8	49.9	50.7
小売関連		48.1	48.3	50.3	47.5	49.5	50.3
飲食関連		42.6	48.9	52.7	46.9	47.3	49.7
サービス関連		47.9	50.9	53.5	52.0	51.5	51.7
住宅関連		47.4	45.5	47.7	48.1	48.7	50.3
企業動向関連		50.3	50.7	50.8	48.5	50.2	52.2
製造業		50.3	51.9	50.1	48.8	51.5	53.1
非製造業		50.5	49.9	50.9	48.1	49.7	52.0
雇用関連		56.3	52.7	55.2	51.4	54.2	54.9

図表8 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	D I
2017	3	1.8%	17.7%	59.8%	16.4%	4.4%	49.0
	4	1.7%	20.2%	59.6%	14.9%	3.6%	50.4
	5	2.1%	21.6%	59.2%	14.1%	3.0%	51.5

## II. 各地域の動向

### 1. 景気の現状判断D I (季節調整値)

前月と比較しての現状判断D I (各分野計)は、全国 11 地域中、7地域で上昇、4地域で低下した。最も上昇幅が大きかったのは北海道(5.9ポイント上昇)で、最も低下幅が大きかったのは北陸(2.2ポイント低下)であった。

図表9 景気の現状判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 月	2016 12	2017 1	2	3	4	5	(前月差)
全国		51.4	49.8	48.6	47.4	48.1	48.6	(0.5)
北海道		49.2	51.0	47.8	48.0	44.8	50.7	(5.9)
東北		48.8	48.7	48.1	45.3	46.2	45.4	(-0.8)
関東		51.5	49.7	47.5	46.3	47.5	47.8	(0.3)
北関東		50.7	46.9	48.6	44.4	46.4	46.7	(0.3)
南関東		52.0	51.4	46.8	47.4	48.1	48.5	(0.4)
東京都		50.3	53.0	50.7	46.3	49.3	49.8	(0.5)
東海		50.1	49.6	50.3	48.9	49.4	50.0	(0.6)
北陸		54.5	50.1	49.8	50.2	51.6	49.4	(-2.2)
近畿		54.4	50.9	50.1	48.3	47.9	50.1	(2.2)
中国		52.0	49.5	50.3	48.1	47.8	49.2	(1.4)
四国		50.0	48.6	48.5	47.0	46.1	44.8	(-1.3)
九州		53.2	51.7	49.8	45.6	49.9	47.8	(-2.1)
沖縄		54.0	52.2	51.2	56.3	51.4	53.9	(2.5)

### 2. 景気の先行き判断D I (季節調整値)

前月と比較しての先行き判断D I (各分野計)は、全国 11 地域中、8地域で上昇、3地域で低下した。最も上昇幅が大きかったのは四国(3.8ポイント上昇)で、最も低下幅が大きかったのは沖縄(3.9ポイント低下)であった。

図表10 景気の先行き判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 月	2016 12	2017 1	2	3	4	5	(前月差)
全国		50.9	49.4	50.6	48.1	48.8	49.6	(0.8)
北海道		51.0	50.2	49.6	48.1	48.0	49.3	(1.3)
東北		49.0	47.3	48.7	47.4	46.4	46.7	(0.3)
関東		49.9	48.3	49.0	48.4	49.5	49.7	(0.2)
北関東		48.1	46.2	46.9	49.3	50.1	50.6	(0.5)
南関東		51.0	49.5	50.2	47.9	49.1	49.2	(0.1)
東京都		51.4	52.3	54.9	48.1	50.3	52.2	(1.9)
東海		51.0	48.1	52.3	47.8	48.2	49.4	(1.2)
北陸		54.5	53.8	52.1	47.9	49.4	52.2	(2.8)
近畿		50.0	49.8	50.6	48.6	49.7	51.5	(1.8)
中国		49.3	49.9	51.3	48.8	51.6	50.0	(-1.6)
四国		49.4	47.6	47.7	46.3	44.9	48.7	(3.8)
九州		52.6	51.9	53.5	50.4	50.8	49.0	(-1.8)
沖縄		53.0	52.3	54.8	52.5	53.7	49.8	(-3.9)

(参考) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I (原数値)

(現状判断)

図表 11 景気の現状判断D I (各分野計)(原数値)

(D I)	年	2016	2017				
	月	12	1	2	3	4	5
全国		51.2	48.6	48.5	50.6	50.4	50.1
北海道		47.0	49.1	47.8	50.2	47.3	51.5
東北		48.1	46.6	45.8	49.1	48.3	47.9
関東		50.7	48.2	46.5	49.3	50.6	49.9
北関東		49.0	45.0	47.2	46.8	49.3	48.7
南関東		51.8	50.2	46.1	50.8	51.3	50.6
東京都		50.9	51.2	48.1	49.8	52.7	52.8
東海		51.3	50.0	50.9	51.7	51.9	50.8
北陸		55.1	50.5	50.5	51.3	53.0	50.5
近畿		53.6	49.5	50.3	51.7	50.7	51.0
中国		52.0	47.4	49.4	51.5	49.6	50.9
四国		50.0	46.1	49.2	50.8	48.6	45.8
九州		53.2	48.8	48.2	49.5	51.6	50.0
沖縄		51.3	52.1	54.6	60.1	51.3	53.5

(先行き判断)

図表 12 景気の先行き判断D I (各分野計)(原数値)

(D I)	年	2016	2017				
	月	12	1	2	3	4	5
全国		49.0	49.7	51.5	49.0	50.4	51.5
北海道		49.1	50.9	51.1	50.2	51.8	53.0
東北		47.8	48.5	50.0	48.2	47.3	48.3
関東		48.2	48.7	50.2	49.3	50.8	51.8
北関東		46.0	47.3	48.0	49.9	51.1	52.4
南関東		49.6	49.6	51.5	48.9	50.6	51.4
東京都		49.4	51.1	54.9	50.3	52.7	54.5
東海		48.8	48.6	52.8	48.0	50.3	52.2
北陸		53.0	54.2	53.7	49.5	51.1	54.3
近畿		50.0	50.1	51.3	48.8	50.0	51.3
中国		48.3	49.7	53.2	49.3	52.2	51.8
四国		47.2	49.4	48.6	45.7	46.1	50.0
九州		50.1	50.7	53.7	50.1	51.6	51.2
沖縄		53.2	53.5	55.9	54.1	53.8	50.7

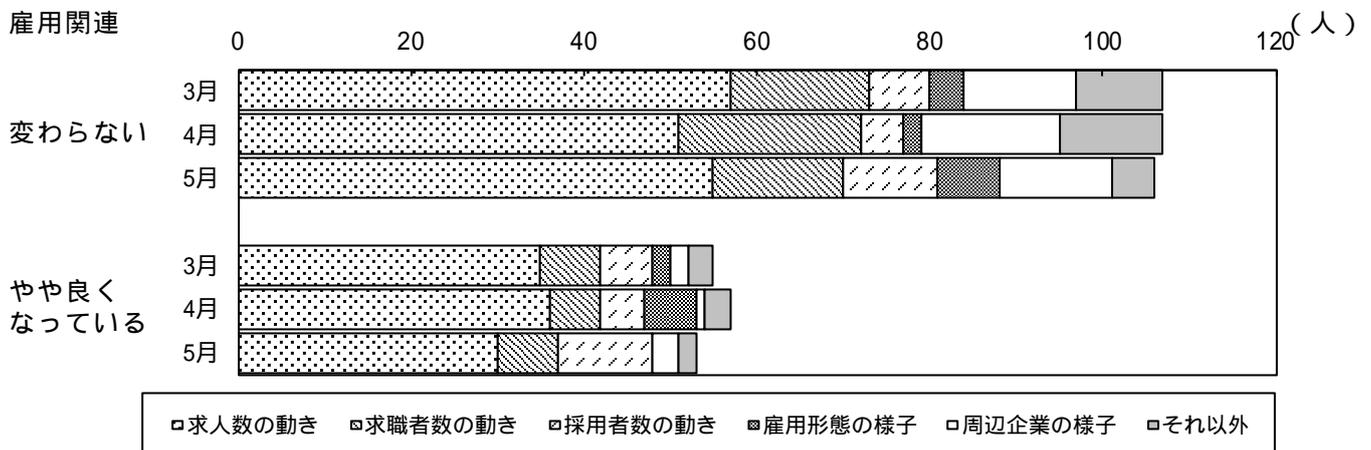
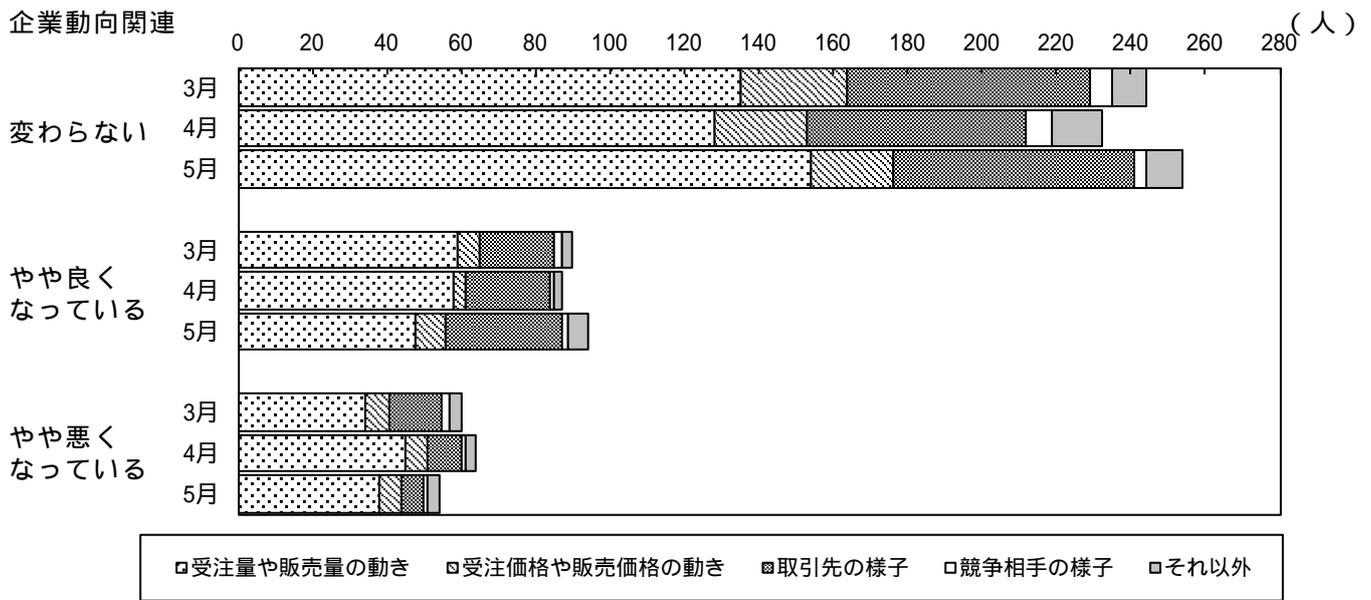
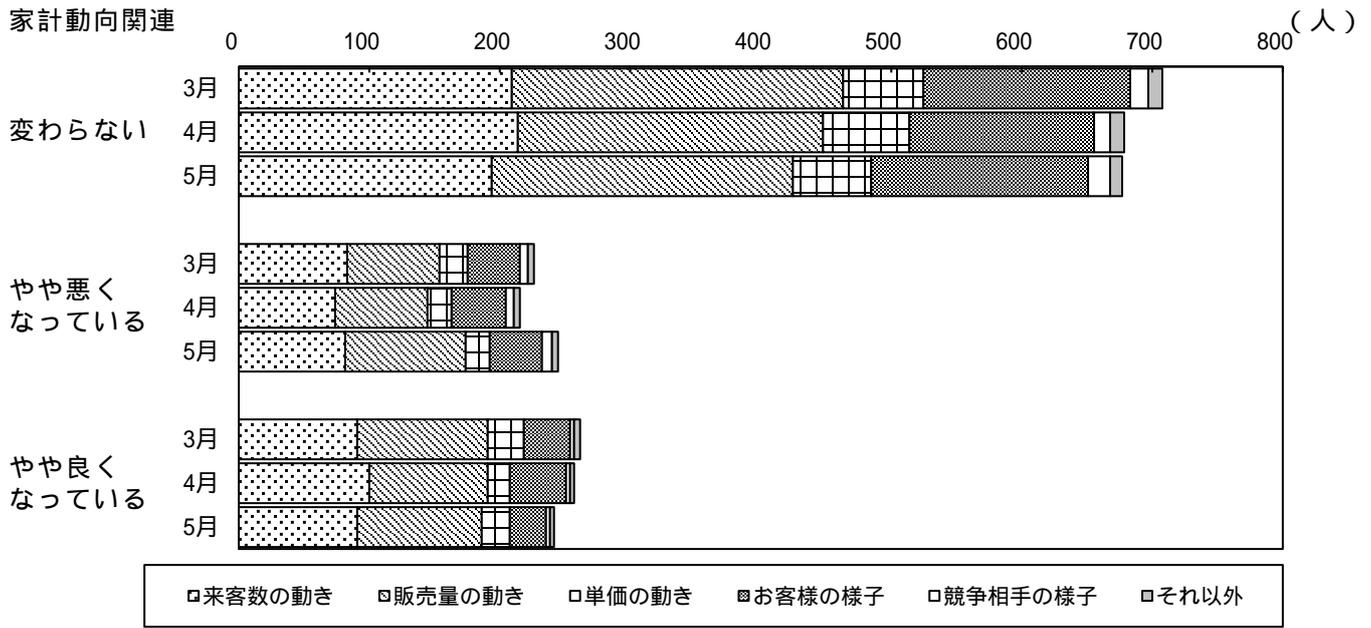
### III. 景気判断理由の概要

全国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	特徴的な判断理由
現状	家計 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア圏からの観光客が好調である。特にゴルフ目的の観光客が好調であり、大統領選挙を終えたばかりの韓国人観光客は活況を呈している。国内企業の大型報奨旅行も好調に推移している(北海道=観光型ホテル)</li> <li>・今期に入り売上は前年を維持している。季節商材の白物家電の動きが良い(九州=家電量販店)</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・来客数及び買上点数は前年並みを維持しているものの、単価が下がった分、売上は微減の状態が続いている。価格最優先の志向が根付いている(南関東=スーパー)</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年のゴールデンウィークは曜日並びがよく、5月中旬までは前年を上回る集客を続けていた。しかし、後半は来客数の伸びが失速し、昼の客単価が例年の90%しかない状態で苦戦を強いられた(北陸=高級レストラン)</li> </ul>
	企業 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数か月は前年同月を上回る傾向である。一般小売用はどちらかといえば苦戦しているものの、業務用や輸出用商材は好調に推移している(北陸=食料品製造業)</li> <li>・受注量は順調に推移しており、施工計画をしっかりと立てないと、工期に間に合わないという状況である(東北=建設業)</li> </ul>
	雇用 関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業からの訪問は増えており、求人数も伸びている(近畿=学校[大学])</li> </ul>
先行き	家計 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピックに向けて、インバウンド客も増えており、来客数はまだ伸びそうである(南関東=一般レストラン)</li> <li>・郊外店は少し苦戦しているが、都心店のインバウンド売上は、まだまだ力強く推移している。化粧品は、郊外店にまで波及効果が出始めている(近畿=百貨店)</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーナスシーズンを前に主力車種の変更も発表されるため、店頭のにぎわいが戻り、夏休みの予定に合わせた新車購入の検討が進むことを期待したい(東海=乗用車販売店)</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・北朝鮮情勢の不透明感、欧州での相次ぐテロ事件で、海外旅行の需要の低迷が懸念される(九州=旅行代理店)</li> </ul>
	企業 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>・メキシコ自動車業界向け等、保留となっていた案件が受注できる見込みである。北米自動車業界向けの設備投資も、動きが活発である(東海=一般機械器具製造業)</li> <li>・雇用の安定が進むなかで、個人所得の伸びによる消費や、前向きな設備投資が徐々に盛り上がり、景気押し上げ効果の期待が持てる(北関東=経営コンサルタント)</li> </ul>
	雇用 関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中途採用ではバブル期と同じ有効求人倍率なので、求職者にとって有利な市場となっているが、景気と採用者数は比例するため、今後しばらくはこの状況が続く(中国=求人情報誌製作会社)</li> </ul>

図表13 現状判断の理由別（着目点別）回答者数の推移

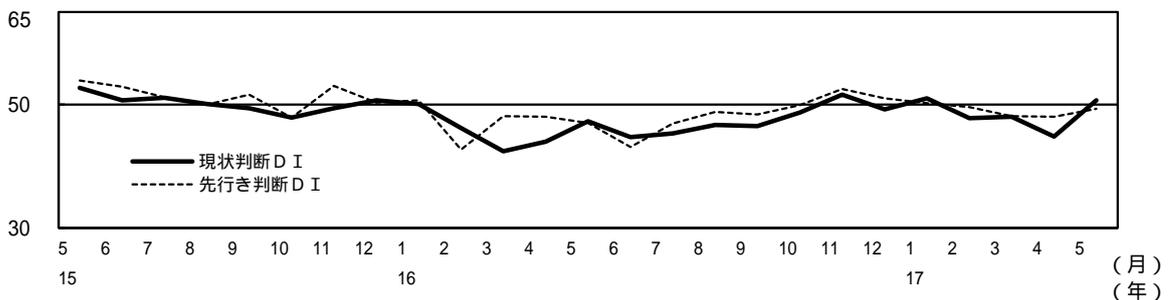


1. 北海道

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連			・金利低下で住宅市場は堅調に推移しているが、客単価があまり向上していない。販売量もそれほど増えていない(住宅販売会社)。
				・アジア圏からの観光客が好調である。特にゴルフ目的の観光客が好調であり、大統領選挙を終えたばかりの韓国人観光客は活況を呈している。国内企業の大型報奨旅行も好調に推移している(観光型ホテル)。
				・5月に入り、来客数が前年の94%に減少している。特にポイントアップ企画、割引セールなどの売出し期間の集客が弱く、売上に大きく響いている(百貨店)。
	企業 動向 関連			・3か月前と比較して、受注状況、売上状況共に特に変化がみられない。ただ、前年と比較すると、若干低調に推移している(食料品製造業)。
				・需要は横ばいであるものの、受注単価が上昇傾向にある(通信業)。
	雇用 関連			・人手不足から企業の求人意欲は旺盛だが、求人広告を出しても応募者が極端に少ないため、手をこまねいている状況にある(求人情報誌製作会社)。
			・企業側の採用意欲が高い水準で推移している。特に建設業やIT関連の採用意欲が高い(学校[大学])。	
その他の特徴 コメント				：外国人観光客の大量買いはなくなったが、国内客による自分用の土産の購入などもあり、個人消費が少しずつ持ち直している(一般小売店[土産])。 ：タイヤ値上げ前の駆け込み需要がみられる。同時にオイル交換などのメンテナンス需要も生じている。ただ、6月以降は反動減で売上が落ち込むことが懸念されるなど、景気は変わらない状況にある(自動車備品販売店)。
先行き	家計 動向 関連			・季節商材に動きはみられるものの、4Kテレビ、大型冷蔵庫などに動きがあまりみられないことから、今後についてもあまり期待できない(家電量販店)。
				・夏に向けて商店街や地域のイベントが多くなるため、今後は多くの人出が見込め、セールや売出しでの売上が期待できる(商店街)。
	企業 動向 関連			・前年の台風被害を受けての災害復旧工事が継続されていることから、今後も好況が維持できる(その他サービス業[建設機械リース])。
				・公共投資の増加に加えて、観光のトップシーズンを迎えるなかで外国人観光客による消費拡大が道内景気を一層押し上げることになるため、景気はやや良くなる(金融業)。
	雇用 関連			・企業における人材不足は今後も継続する。また、夏に向けて、企業の販売促進、キャンペーン展開が行われるため、人材ニーズは一層高まることになる。企業の売上確保に向けた真剣な動きが感じられる(人材派遣会社)。
	その他の特徴 コメント			

( D I ) 図表14 現状・先行き判断D I (北海道)の推移(季節調整値)



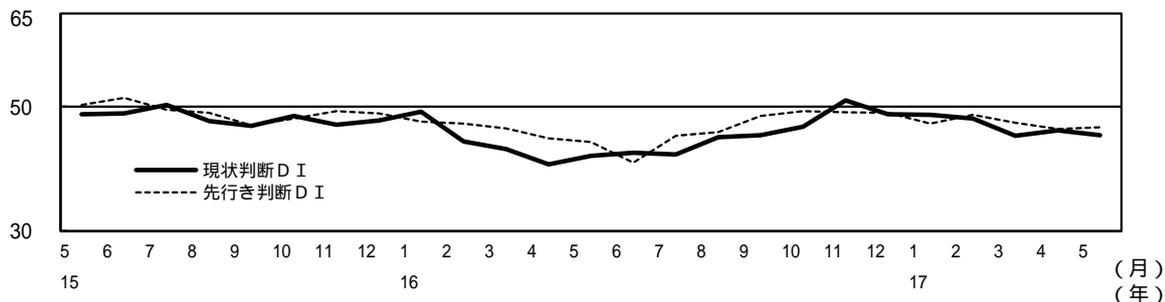
## 2. 東北

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・ゴールデンウィーク以降は、天候の影響もあってクールビズ需要が盛り上がり、来客数が大幅に減少している（衣料品専門店）。
			・例年よりも暑くなる日が早く、ソフトドリンクの売上が伸長している。地元の祭りでも好天に恵まれ人出が多く、飲料関係が良く売れている（コンビニ）。
企業 動向 関連			・電子機器、機械関連のOEM企業の受注状況に、特に変化はない（経営コンサルタント）。
			・受注量は順調に推移しており、施工計画をしっかりと立てないと、工期に間に合わないという状況である（建設業）。
雇用 関連			・工場閉鎖により物量の動きが予想しにくい状況にあるが、当社への影響は徐々に表れている（輸送業）。
			・求人獲得数は前年同時期と比較して微増状態であり、さほど大きな変化はみられていない（学校就職担当者）。
その他の特徴 コメント			・求人数はこれ以上減少することはないとみているものの、低迷状態が続いている。正社員の募集がほとんど無くなり、契約社員の募集が増えていることや、募集条件の良い首都圏に人が流れてしまうため、地方は慢性的な人手不足となっている（新聞社〔求人広告〕）。
			： 今月は来客数の動きが良く、3月の歓送迎会シーズンが過ぎた後の月としてはまあまあであり、良い方向に向かっている（一般レストラン）。
			： プレミアムフライデーの効果はなく、レストラン、宿泊などの個人利用は減少傾向にある。また、法人の宴会需要も前年を下回っている（都市型ホテル）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・携帯電話会社を中心に次のサービス案が出てきており、競争激化が進むことは間違いない。顧客の奪い合いが激しくなるため対抗策を進めていくが、現状維持が精一杯ではないか（通信会社）。
			・人口減少のニュースにより先行きの不安が増したのか、一般客の財布のひもが固くなったように見受けられる（その他サービス〔自動車整備業〕）。
	企業 動向 関連		・新規案件及び既取引先からの受注増加は期待薄である。ただし、激減することも考えにくく、良くも悪くも現状維持で推移するとみている（金属工業協同組合）。
			・今夏は猛暑との長期予報が出ており、高温障害による米の生育不良が懸念される（農林水産業）。
雇用 関連		・有効求人倍率に変動がなく、今後も同様の傾向で推移するとみている（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント			： これからはますます暖かくなっていく。衣料品の動きも活発となり、来客数の増加が見込める。飲食店は更にプラスになるとみている（商店街）。
			： 今年の夏は猛暑と予報されている。西日本ではファン付きの作業服が好調のようだが、我慢強い人が多いのか東北ではほとんど売れていない。あまり暑すぎても購買意欲が減少するため、ほどほどに暑くなって欲しい（その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕）。

( D I )

図表15 現状・先行き判断D I（東北）の推移（季節調整値）



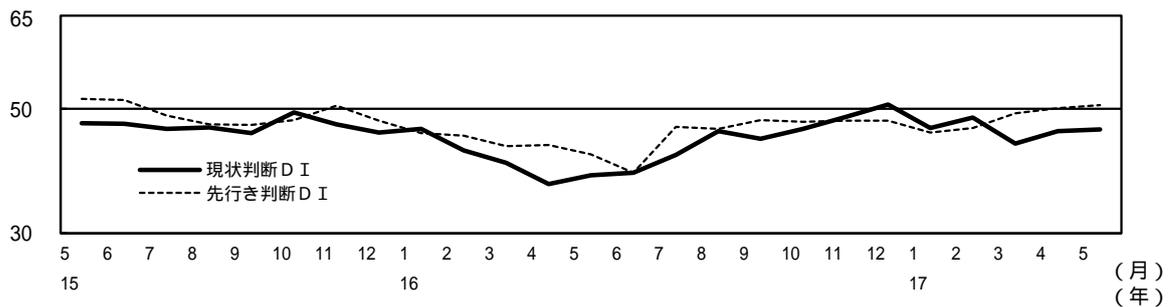
3. 北関東

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・相変わらず、消費者の積極的な購買意欲は見えず、必要な物だけを購入するケースが多い。買換え需要は徐々に出てきているものの、商品単価が下がっており、売上を伸ばすのは厳しい(一般小売店[家電])。
			・コンビニでは、毎週新商品が出てくる。しかし、日配品、弁当、おにぎり、総菜等の新規の動きが、ここのところ何となく良くない。客は新商品が発売になると手に取ってくれるのだが、反応が鈍い(コンビニ)。
			・単価の高い物も、きちんと勤めることで販売が伸びている(自動車備品販売店)。
	企業 動向 関連		・取引先の受注、販売等の様子は、良い、悪い、普通とさまざまで、総体的にあまり変わらない(輸送用機械器具製造業)。
		×	・製造業の景況感が改善している。半導体製造関連企業で受注増の動きがみられるほか、自動車関連も底堅く推移している(金融業)。 ・過去にないほどの生産減少で、商品が動いておらず、工場休業日を1日増やすかどうかを検討しているなど、業界全体が思わしくない(食料品製造業)。
	雇用 関連		・正社員雇用が多いようである。この時期、介護、建築などの特定業種は活発に求人活動をしているが、中小企業の動きは例年と変わらない(学校[専門学校])。 ・語学系の人材を中心に採用意欲は強く、引き合いが後を絶たない(人材派遣会社)。
その他の特徴 コメント		：天候に恵まれたゴールデンウィークから始まった5月は、その後も天候が安定し、順調な来客数と売上となっている。高齢者の来場が多い(ゴルフ場)。 ：修理費用より安い商品が次々に完売となり、品薄になったため、修理依頼が増えてきている(通信会社)。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・食品や化粧品などの必需品、消耗品は好調が続くだろうが、店全体の好不調の鍵は衣料品が握っている。衣料品の不振が続いているが、3か月先も変わらない(百貨店)。
			・大型観光キャンペーンの効果や訪日観光客の増加などを要因として、当地来訪者の伸びが堅調である(旅行代理店)。
	企業 動向 関連		・しばらくは、選ばなければ仕事を確保出来そうである(電気機械器具製造業)。
			・東京オリンピック関連の仕事が徐々に増え、建築関連の最盛期と見込まれる秋から冬に向けての期待感もあり、良くなる(化学工業)。
雇用 関連		・飲食、福祉、介護、サービス業などでは人手不足が深刻で、パートの時給を上げて募集広告を出しても、応募が少ない(求人情報誌製作会社)。	
その他の特徴 コメント		：ふらっと寄ってたくさん飲んでくれる客が増えていて、街にもぎやかになっているようである。このままこの調子が続いてもらいたい(スナック)。 ：雇用の安定が進むなかで、個人所得の伸びによる消費や、前向きな設備投資が徐々に盛り上がり、景気押し上げ効果の期待が持てる(経営コンサルタント)。	

( D I )

図表16 現状・先行き判断D I (北関東)の推移(季節調整値)

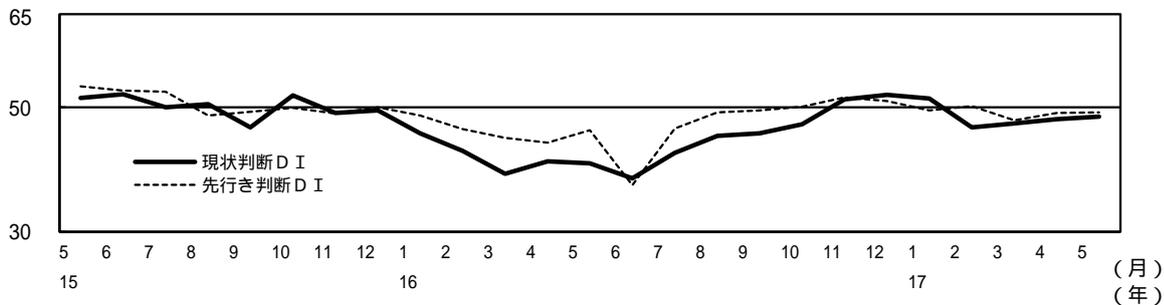


4. 南関東

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・ここ最近は天候も良く、暖かくなってきているので、来客数も非常に多くなっている(コンビニ)。
			・終電が終わってしばらくすると、利用客が全くいなくなる。人通りもなくなっている(タクシー運転手)。
企業 動向 関連			・暑くなるのが早く、季節商材の売れ筋が変わってきている。客のニーズに対応しきれていない(食料品製造業)。
			・取引先で新型車発売に向けて、広告宣伝費の予算が増えてきている(広告代理店)。
雇用 関連			・例年であれば、連休明けの10日ごろから忙しくなるのだが、今年は様子が違い、暇な日が続いている(出版・印刷・同関連産業)。
			・新規求人数は前年同期比で増加しているものの、3か月前と比べると増加割合は縮小している(職業安定所)。
その他の特徴 コメント		・2018年の新卒採用は後半戦に突入し、内々定を持つ学生が半数近くいるが、既に2019年の新卒採用企画も動き始めている。採用数を前年より増やす企業が、インターンシップイベントへ積極的に参画している(民間職業紹介機関)。 ：自営業の客の来場が減っている。電話してみると、最近忙しいとの声をよく聞く(ゴルフ場)。 ：来客数及び買上点数は前年並みを維持しているものの、単価が下がった分、売上は微減の状態が続いている。価格最優先の志向が根付いている(スーパー)。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・夏のボーナスが増加するなど個人消費を後押しする状況はあるものの、猛暑の懸念や諸外国の情勢により消費を控えるリスクが拭えないため、慎重に構える必要がある(百貨店)。
			・東京オリンピックに向けて、インバウンド客も増えており、来客数はまだ伸びそうである(一般レストラン)。
	企業 動向 関連		・7月までは今月のようなギリギリ損益分岐点内の受注が続くことが予想される。一部上場企業の景気回復感はあるが、コストダウン要求もあり、米国の金利アップ、TPP問題、国内設備投資の鈍化などにより、不安感は拭えない(精密機械器具製造業)。
			・不動産売買があるなかで、地中埋設物の取扱に敏感になっている。売却及び取得に対する地中埋設物や土壌汚染への配慮が客の心配をあまり、それらの対策に経費をかけるようになって、仕事が増えてきている(建設業)。
雇用 関連		・人手不足が改善される見込みがない(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント		：都議会選挙関連で短期的な特需が見込める。また、業務委託の事務センター等が派遣に切り替わる傾向がある(人材派遣会社)。 ：高稼働が続いていた宿泊も落ち着いてきており、2~3か月先の予約状況は例年を下回っている。海外情勢の不安から国内旅行需要の高まりに期待したいが、個人消費の冷え込みは依然として続いていることから、景気はやや悪い方向へ進む(都市型ホテル)。	

(D I) 図表17 現状・先行き判断D I (南関東)の推移(季節調整値)

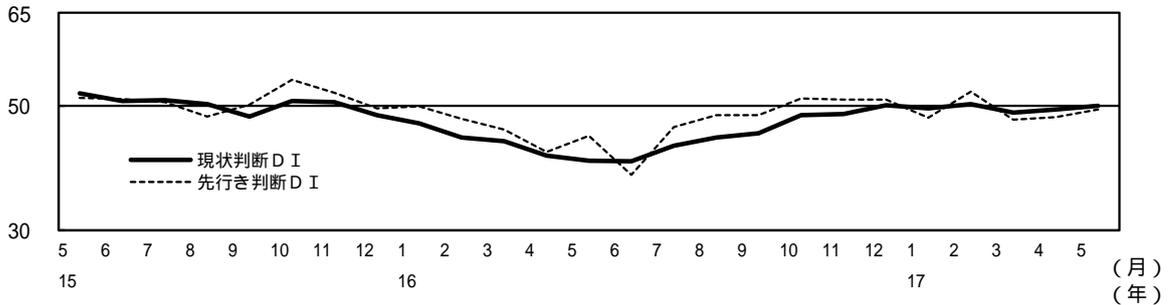


5. 東海

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連			・リフォームを希望する客は多いが、新築には消極的である(住宅販売会社)
				・60歳以上の客が多いが、最近の製品は機能が複雑で、新たに買換えるメリットをなかなか理解してもらえない。故障するまで使うという人が多く、増販は難しい(商店街)
				・価格が最も安い商品よりも、少し良い物や機能の高い商品を選ぶ客が増えてきている(家電量販店)
	企業 動向 関連			・受注量はほぼ変わらず、販売単価も引き続き低下傾向にある(金属製品製造業)
				・休日の行楽地は、これまでは給料日前後で明らかに人出が違い、給料日後は3割増しの印象であったが、ここ数か月は給料日の前後でもさほど差がなく、全体的に人出が多くなっている(通信会社)
	雇用 関連			・新聞の折込料収入が、前月に比べて2割落ちている(新聞販売店[広告])
			・新卒、中途採用共に動きがあり、各社で優秀な人材を確保するためのしごきを削っている。就職決定者数には、大きな変化はない(民間職業紹介機関)	
			・求職者数は前年同月比で1割程度減少している一方で、企業では、業務量の増加に雇用を増やしてでも対応を迫られている(職業安定所)	
	その他の特徴 コメント		: 有効求人倍率の上昇とともに、より条件の良い職場への転職が増加している。福祉業界以外に製造業等への転職者も増加していることから、産業界全般での景気の良さが見受けられる(その他サービス[介護サービス]) : アニサキスの報道で鮮魚や総菜部門の売上に影響が続いている。酒税法の改正で値上げ前の駆け込み需要を期待したが、特に大きな動きはなく、値上げの情報が伝わっていない気がする(スーパー)	
先行き	家計 動向 関連			・ボーナスシーズンを前に主力車種の変更も発表されるため、店頭のにぎわいが戻り、夏休みの予定に合わせた新車購入の検討が進むことを期待したい(乗用車販売店)
				・6月も高い気温で推移する見通しで、夏物衣料品や雑貨等を中心に動きが活発となり、売上増加が期待できる(百貨店)
	企業 動向 関連			・燃料となる軽油価格の上昇が続いている。前年比で約16円の大幅な値上がりで、この先が心配である(輸送業)
				・メキシコ自動車業界向け等、保留となっていた案件が受注できる見込みである。北米自動車業界向けの設備投資も、動きが活発である(一般機械器具製造業)
	雇用 関連			・有効求人倍率等は高い水準を示している。現状の従業員で対応可能な業務量の、ほぼ限界に達している分野もあり、企業は、人材確保が進まなければ、これ以上業務を拡大できず、景気の改善も足踏み状態となる(職業安定所)
	その他の特徴 コメント			: 7月の予約数は各ゴルフ場とも順調に推移しており、前年同月を上回っているが、梅雨に入って天候に左右されることを考えると、数字的にはあまり伸びない(ゴルフ場) : 家庭でも防犯グッズへの関心が高く依頼は増えているが、競合先と比較され販売量の割には利益にならない。必要な物でも最小限しか購入しない傾向にある(その他住宅[住宅管理])

( D I ) 図表18 現状・先行き判断D I (東海)の推移(季節調整値)

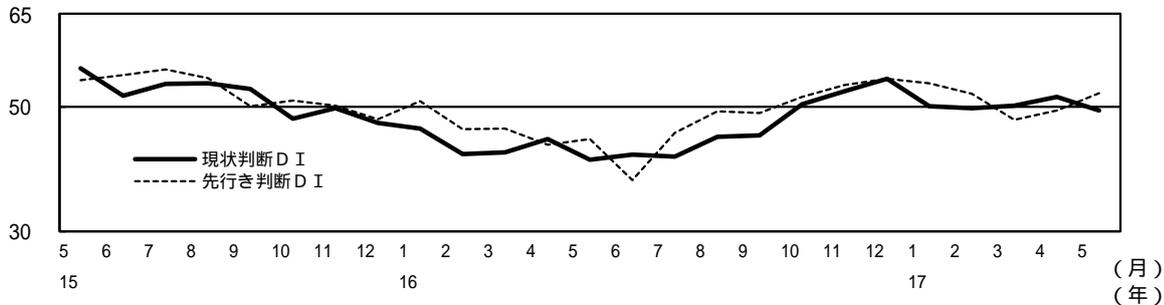


6. 北陸

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連			・今春期に大型モールが新規出店し、衣料や住まいの品を中心にゴールデンウィーク期間中にまで影響を受けた。伸長が低い状況にある中で顧客争奪が厳しい状態となっている。食料品部門は相場安が続いてメニュー提案がしやすくなり、売上確保ができています。ただし、客の購買はシビアで必要以上に買わない傾向である（その他小売 [ショッピングセンター]）。
				・今年のゴールデンウィークは曜日並びがよく、5月中旬までは前年を上回る集客が続いていた。しかし、後半は来客数の伸びが失速し、昼の客単価が例年の90%しかない状態で苦戦を強いられた（高級レストラン）。
				・気温が高く、夏物素材のエアコンが好調である（家電量販店）。
	企業 動向 関連			・ここ数か月は前年同月を上回る傾向である。一般小売用はどちらかといえば苦戦しているものの、業務用や輸出用素材は好調に推移している（食料品製造業）。
				・非衣料分野の資材関連が非常に順調である一方で、日用衣料は価格が非常に厳しい状況である（繊維工業）。
	雇用 関連			・求人数がほとんど変わらない（求人情報誌製作会社） ・県内企業に対して、求人特集などを提案すると反応がよい（新聞社 [求人広告]）。
	その他の特徴 コメント			：山岳観光ルートへのインバウンド客が増加している（金融業） ：出張旅費において、客の料金比較がシビアになっている（旅行代理店）。
先行き	家計 動向 関連			・夏に向けての新商品発売があるが、大きな変化とはならないだろう（通信会社）。
				・これまで動きのなかった土地への問い合わせや、販売開始から1年以上が経過した分譲住宅の問い合わせがあり、まだまだ住宅需要の強さは衰えていない様子である。販売額も少しずつではあるが増えている。この状況はもう少し続きそうである（住宅販売会社）。
	企業 動向 関連			・5月は前年比を超えた。大型家電量販店がオープンし、チラシのサイズアップが後押ししてくれた。しかし、売上増の要因が単一であり一過性であるため、景気回復の兆候までは見えていない状況である（新聞販売店 [広告]）。
				・自社商品とOEM商品も含めて、今まであまり受注量が多くなかった顧客からの受注案件が増えている。全体的には生産量を増やしていける見通しである（精密機械器具製造業）。
	雇用 関連			・一部の事業所からは良くなっているとの声が聞かれるが、一方で、忙しい割に利益が出ないという事業所の声も多く、全体としては変わらない（職業安定所）。
	その他の特徴 コメント			：北陸新幹線開業前に比べて、現在は景気が良くなった。しかし、開業後に一気に景気の良さを感じたためか、最近では横ばい、もしくは緩やかな下降を感じる。期待できる外的要因は少なくなっている（一般レストラン）。 ：特にドライバーの人手不足により、仕事が受注出来ない状況になってくる（輸送業）。

( D I ) 図表19 現状・先行き判断D I (北陸)の推移 (季節調整値)

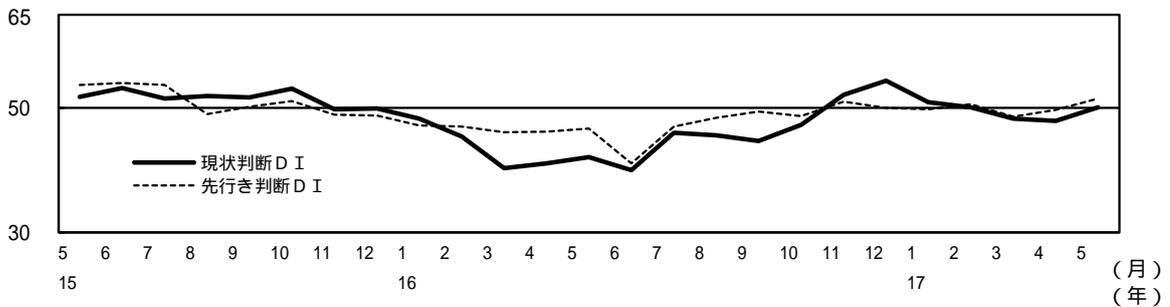


7. 近畿

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・展示場などへの来場状況は変わらないが、商談中の住宅の延床面積が、単価のアップに伴って縮小傾向となっている(住宅販売会社)。
			・株価が今年に入って2万円近くを維持しており、客との会話でも、景気の良い話が聞かれる(乗用車販売店)。
			・来客数は前年並みか微増であるが、客単価の下落で、売上は前年の水準を維持できない状況である(スーパー)。
	企業 動向 関連		・新たな期が始まり、前年ベースの発注が続いていることで安定しているが、特に新規案件はない(広告代理店)。
			・鋼材の値上げに伴う価格転嫁に対し、顧客の理解がなかなか得られない(金属製品製造業)。
	雇用 関連		・この時期、求人や景気動向が今一つ盛り上がらないこともあり、人材の育成、採用活動のほか、管理職に的を絞った強化の動きが活発になっている。しばらくはこの傾向が続く(経営コンサルタント)。
			・企業からの訪問は増えており、求人数も伸びている(学校[大学])。
その他の特徴 コメント		・自動車やスマートフォン関連が引き続き好調であるほか、生産用機械、はん用機械製造業の求人も増加しているため、設備投資の意欲は旺盛とみられる。働き方改革の広がりを背景に、運輸業からの求人も大幅に増えている(職業安定所)。 ：インバウンドによる宿泊の増加は継続している。客室単価も高止まりのまま推移しており、周辺企業からも、出張での宿泊手当ての上昇はやむを得ないとの声が聞かれる。さらに、食堂は朝食が好調で、若干の値上げもあり、大幅な増収となっている。法人宴会も不安定ながら前年を上回っているなど、全部門で収入増となっている(都市型ホテル)。 ：ゴールデンウィークが終わってから、来客数が徐々に減少している。企業による大口の懇親会や交流会などの需要は変わらないが、個人客による宴会などの利用が減っている。旅行や趣味に関する消費が増えても、食事などの消費を抑えている傾向をみると、景気が上向いているとは感じられない(一般レストラン)。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・インバウンド客については、一定の来場者数がある。国内客の動きもある程度は落ち着くため、このままで推移すると考えている(観光名所)。
			・郊外店は少し苦戦しているが、都心店のインバウンド売上は、まだまだ力強く推移している。化粧品は、郊外店にまで波及効果が出始めている(百貨店)。
	企業 動向 関連		・人材不足により、思うように受注できなくなる恐れがある(建設業)。
			・引き合いはあるものの、受注に至るか否かが不透明である。営業努力により、いかに受注に結びつけていくのが課題である(輸送用機械器具製造業)。
雇用 関連		・企業は人手不足のなかで、限られた労働力でやりくりしている。求職者にはひとまず仕事があるため、極端な不景気になることはない。この状況は今後も続くと思われる(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント		：消費に関しては、価格に見合うと判断されれば、高額商材の購入も比較的早い段階で決まる事例が増えている(一般小売店[酒])。 ：6~7月の予約はそれほど良くない。特に、団体客の動きが少し悪いようである(観光型ホテル)。	

( D I ) 図表20 現状・先行き判断D Iの(近畿)推移(季節調整値)

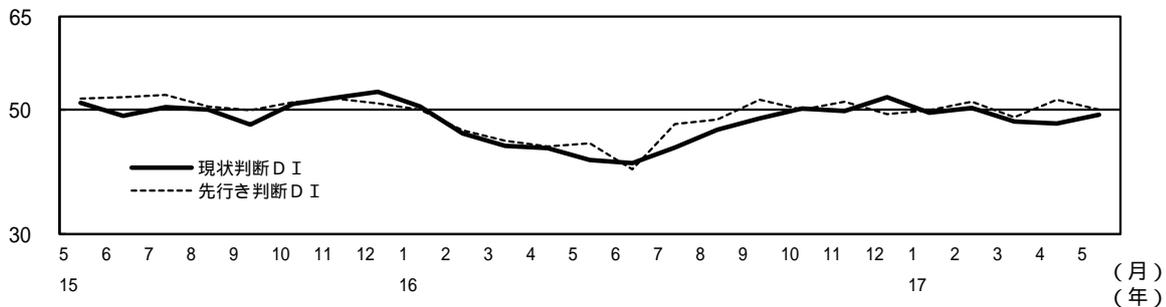


8 . 中国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向関連		・海外からの客が駅前に泊まっているが、隣接する商店街で見かけることはなく、来客数増につながっていない(商店街)
			・数か月前と比べて婦人服中心にファッションアイテムは改善の兆しがあるものの、好調であった食料品関連が厳しい状況になりつつある。来客数は前年より少し増えている(百貨店)
			・来客数が減少し、ゴールデンウィークや母の日などの季節催事で苦戦している(スーパー)
	企業動向関連		・ゴールデンウィークでレジャー飲食関連はまずまずの数字を残しており、売上高も前年を上回っているところもある一方で、製造業や建設業がやや苦戦している(会計事務所)
			・国内造船所の手持ち工事量の減少や、船価の低迷はあるものの、海運各社の業績改善やばら積み船の新造船価格の底打ち観測を背景に、徐々に新造船の受注が出始めている(輸送用機械器具製造業)
	雇用関連		・国内倉庫の荷動きが鈍く、輸出入貨物の取扱も鈍化している(輸送業)
		・仕事があっても人が足りない企業が多いが、性別や年齢等の法的制限が足かせになっている(民間職業紹介機関)	
その他の特徴コメント			・新規求人はタブレットやモニター機器の組立製造が好調な製造業やショッピングモールへの新規出店が相次ぐ小売業など、多くの業種で増加傾向となり、求人全体でも前年比で1割増となっている(職業安定所)
その他の特徴コメント			：ゴールデンウィークの曜日の並びが良く、天候にも恵まれたので入園者数が前年比で増加している。また、大型クルーズ船のツアー入園もあり、外国人入園者数も大幅に増加している(テーマパーク) ：来客数、客単価共に悪くはなく、3か月前と比較して変化はない(コンビニ)
先行き	家計動向関連		・猛暑には期待できるが、それ以外にプラスに作用するものがない(家電量販店)
			・予約は前年並みの状況であるが、今月に全国上映をスタートした映画や6月に運行を始める豪華寝台列車など、話題性があるイベントによる地域全体のPR効果で集客ができる(都市型ホテル)
	企業動向関連		・現状がかなり悪い状況であるが、ここから魚の水揚げも落ち着いてくるので、これ以上悪くなることはない。しかし、その一方で刺身商材などを敬遠する流れが払拭されない限りはそれほど回復することはない(農林水産業)
			・アウトソーシングやそれに関する新しい商材について域内の客からの問い合わせが増加してくる(通信業)
	雇用関連		・劇的に採用数を増やしたり減らしたりする計画がある企業の情報はない(学校[大学])
	その他の特徴コメント		

( D I ) 図表21 現状・先行き判断D I (中国)の推移(季節調整値)

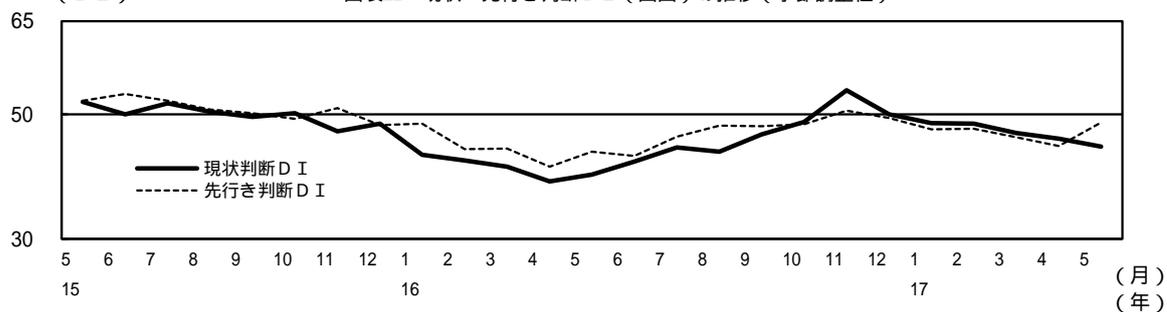


9. 四国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連		・ サービス業の設備投資が多くなってきている (設計事務所)
			・ アニサキスによる食中毒の報道や、青果の単価安など、景気は不安定な状態が続いている (スーパー)
			・ 商店街は週末を中心にインバウンド客などでにぎわっている。人通りが増えても売上へは直結していないが、以前より消費マインドは向上しているように感じられる。その恩恵は、飲食や催事に表れている (商店街)
	企業動向関連		・ 取引先企業の足元の資金需要動向は、運転資金・設備資金とも3か月前に比べて大きな変化はない (金融業)
		×	・ 暑くなり、店頭販売が良くなっている。夏に向けて順調に伸びていく (繊維工業)
	雇用関連		・ 県内の4月の求人倍率が過去最高の1.49倍となり、景気が上向いているように見える。実情としては、慢性的な人手不足が解消できていない企業が多く、景気は横ばい (求人情報誌)
			・ 求職者の登録が若干増えつつある一方、求人数が減ってきている。景気に不安がある (人材派遣会社)
その他の特徴コメント		○ : 3月まで好調だった新車販売が、今月は前年を大きく下回っている (乗用車販売店) × : 乗車率は悪く、距離も短くなっている。昼間は自家用車や公共交通機関を利用する人が多く、夜間でも自転車に乗る若者を多く見かける (タクシー運転手)	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連		・ 景気については今後も変わりなく、天候や気温と自助努力によって実績が左右されると考えている (コンビニ)
			・ デイリーの商売が少し上向いてきており、今後高額品が上向けば回復する可能性が高い。前年比で4~5月の客数はマイナスにはなっていない (百貨店)
	企業動向関連		・ 国内でのクレーンの稼働は活況だが、オペレーター不足によって販売は頭打ちになっている (一般機械製造業)
			・ 経営者たちは、外国人観光客が増えていることを非常に喜んでいる。インバウンド効果は将来的にプラスだという意見が大半であるが、積極的な設備投資とまでは至っていない。県内温泉地区以外では全体的に、設備投資の気運は広がっていない (公認会計士)
	雇用関連		・ 企業の採用意欲は高いが、採用条件など従業員の待遇改善は見られない (職業安定所)
その他の特徴コメント		○ : 400億円もの大型案件がようやく決まり、すでに着工している。また、新型の発電装置の初受注もあり、売上は増加する (電気機械器具製造業) × : 海外仕入れ原料、製品の高騰、国内水産原料は高値で推移している。小売店は販売価格に転嫁できず、利益を圧迫していく (食料品製造業)	

( D I ) 図表22 現状・先行き判断D I (四国) の推移 (季節調整値)

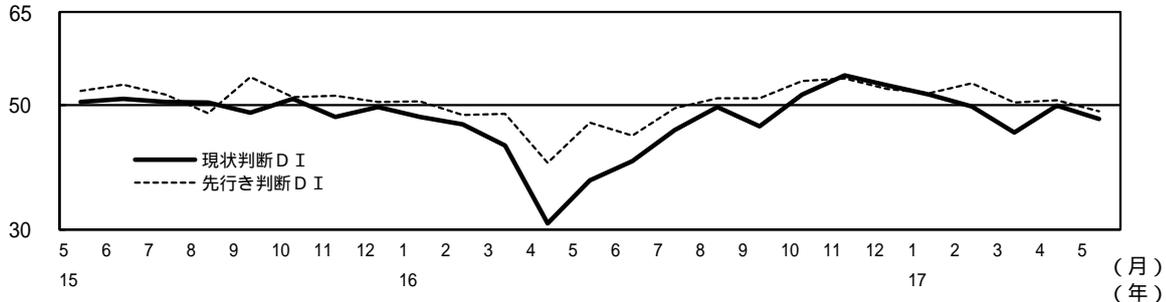


10.九州

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・近隣のディスカウントストアとの競合上、特売商品の構成比を高くしているにもかかわらず、来客数が前年を下回っている(スーパー)
			・今期に入り売上は前年を維持している。季節商材の白物家電の動きが良い(家電量販店)
企業 動向 関連			・半導体向けの生産が増えるとの情報はあるものの、現在では生産量は増えていない(その他製造業[産業廃物処理業])
			・不動産関連融資は堅調である(金融業)
雇用 関連			・5月恒例の催事では一部の会場は良かったが、一部の会場は悪かった。5月の受注量は前年比で1割以上減で、売上も1割5分近く減少している(窯業・土石製品製造業)
			・引き続き求人数の増加傾向がみられ、管内の有効求人倍率は高い水準で推移している(職業安定所)
その他の特徴 コメント		・熊本地震から1年が経過した。中心市街地には新たなファッションビルが開店し、人も多くなり、他の店舗にも好影響が見られる(新聞社[求人広告]) ：5月の母の日までは良かったが、それ以降も来客数やインターネット注文が予想外に多かった。熊本地震で建築関係を中心にあと4～5年は景気が良いと言われているが、遠巻きに影響している(一般小売店[生花]) ：韓国、台湾、香港、米国等のインバウンドや家族等の団体客が多くなったが、地元の客が少ない(高級レストラン)	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・前年は、8月位まで熊本地震の影響があったが、その反動や韓国LCC増便などで現状の傾向は、夏までは継続する(その他小売の動向を把握できる者[ショッピングセンター])
			・春に続いて一層の新商品の投入及びそれに伴う販売促進活動を予定している(通信会社)
	企業 動向 関連		・見積案件も、低調に推移して受注もあまりうまくいかず苦戦している。先行きの見通しもなく設備投資する方もなかなかできないようである。新年度で公共工事がどれだけ出るかに期待したい(建設業)
			・投資が必要となるが、投資ができれば取引先からの引き合いは確実に増える(電気機械器具製造業)
雇用 関連		・市内、市外と商業施設が開店しており、人材の取り合いになっている。雇用は増えている。お中元の時期になるので、短期での依頼も増えている(人材派遣会社)	
その他の特徴 コメント		：北朝鮮情勢の不透明感、欧州での相次ぐテロ事件で、海外旅行の需要の低迷が懸念される(旅行代理店) ：人手不足の影響で商品がこちらの要望通りに入荷せず、大きな販売損失が生じる(一般小売店[精肉])	

( D I ) 図表23 現状・先行き判断D I (九州)の推移(季節調整値)

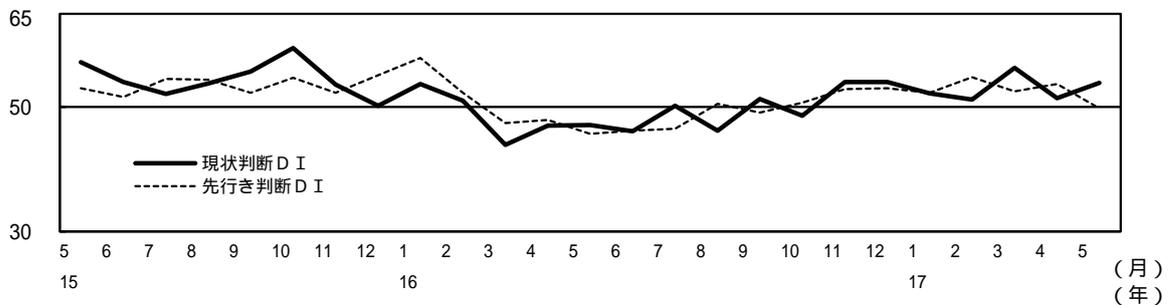


11. 沖縄

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連			・ レンタカー需要で新車の受注が好調である。中古車の動きも良い(乗用車販売店)。
				・ これまで低迷していた衣料品売上が、今月は押し上げる形で貢献している。また、化粧品売上は好調をキープしており、インバウンド客も含めると、全館売上への貢献度が大きい。免税売上にはならないが、食品総菜売場でインバウンド客の食事も陰の貢献度は高い(百貨店)。
				・ 職人不足により、戸建て住宅施工費の原価が押し上げられているため、利益確保が厳しい状況である(住宅販売会社)。
	企業 動向 関連			・ ゴールデンウィークや観光関連需要及び特売効果により売上がやや伸びている(食料品製造業)。
		×		・ 公共向け出荷は前年比減、民間は前年比やや増で、全体では横ばいである(窯業・土石製品製造業)。 ・ 新築、リフォーム共に受注がパタッと止まった(建設業)。
	雇用 関連			・ 2月度の週平均件数と比較すると41件増だったので、やや良くなっているとみられる(求人情報誌製作会社)。
				・ 企業からの求人は引き続き堅調だが、派遣登録している求職者は低調傾向である(人材派遣会社)。
その他の特徴 コメント				：営業努力は当然行っているが、それ以上に、特に本土客が増加している(ゴルフ場)。 ：ゴールデンウィーク中の入客数は例年並みだったが、ゴールデンウィーク後の平日は落ち込み、前年より15%ほど減っている。特に地元客の減少が目立つ(その他飲食[居酒屋])。
先行き	家計 動向 関連			・ 今月も、景気は良くなっている感じはしない。観光客は多くなっているが、地元客が少ない状態が続いている。また、新商品の購買意欲は相変わらず強さに欠け、まだ回復には時間が必要とみられる(衣料品専門店)。
				・ 改装店が好調に推移し、新店オープンによる売上が見込める(スーパー)。 ・ 現段階における予約状況から推測される今後2～3か月後の客室稼働率は、ほぼ前年並みの見込みである(観光型ホテル)。
	企業 動向 関連			・ 県内企業の販促活動が、新年度に入ってから前年度と比べてやや消極的な傾向にある。この状況はしばらく続きそうで、回復の目処も立っていない。本土大手資本の企業との競争や海外企業との競争が厳しさを増すなかで、先行きを不安視している可能性は否めない(広告代理店)。
				・ 家具、家電を除き量販店や外食向け取扱物量が前年比で増えている。今後も数か月は伸びる見込みである。また、既存や新規の受託業務の受託料金改定も進み、人材確保のために大幅に増えている労務費による収益悪化も改善の兆しが見える(輸送業)。
	雇用 関連			・ 新卒求人が活発になっており、企業側の採用意欲を感じる。学生の就職活動にも拍車がかかっている(学校[大学])。
その他の特徴 コメント				：大型ショッピングセンターやホテル、分譲マンション建設により、戸建て住宅への業者手配がより厳しくなりつつある(住宅販売会社)。

( D I ) 図表24 現状・先行き判断D I (沖縄)の推移(季節調整値)



(参考1) 景気の現状水準判断D I

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった(注)

図表25 景気の現状水準判断D I (季節調整値)

(D I)	年 月	2016 12	2017 1	2	3	4	5
合計		48.3	48.2	46.8	45.3	47.0	47.5
家計動向関連		45.5	46.1	43.9	43.1	44.9	44.6
小売関連		43.3	44.2	41.5	39.9	41.9	41.8
飲食関連		45.5	44.3	42.2	44.8	44.2	46.5
サービス関連		49.1	49.8	48.6	48.6	50.5	49.4
住宅関連		48.2	48.4	46.8	44.1	47.7	45.5
企業動向関連		51.3	49.8	49.7	46.7	47.8	51.6
製造業		50.9	50.2	48.1	45.2	47.3	49.9
非製造業		51.7	49.6	51.2	48.3	48.2	53.3
雇用関連		60.5	59.1	58.9	57.1	58.9	57.6



図表27 景気の現状水準判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 月	2016 12	2017 1	2	3	4	5
全国		48.3	48.2	46.8	45.3	47.0	47.5
北海道		46.9	49.3	48.9	47.1	47.0	50.3
東北		46.0	47.0	44.8	42.9	45.0	43.0
関東		47.1	45.6	44.8	43.8	44.9	45.4
北関東		44.4	43.1	44.5	41.0	43.7	43.3
南関東		48.7	47.1	45.0	45.5	45.7	46.6
東京都		50.7	47.9	46.7	46.3	47.8	49.3
東海		48.0	49.7	49.1	46.0	48.5	49.0
北陸		52.4	52.8	52.0	50.5	49.5	50.6
近畿		49.4	50.4	47.2	46.5	47.1	48.8
中国		50.4	49.2	48.8	47.1	48.8	48.7
四国		43.8	45.4	44.3	43.1	46.2	43.9
九州		50.7	50.2	47.2	43.6	50.1	45.4
沖縄		53.8	61.7	58.8	55.9	56.5	55.9

図表 28 景気の現状水準判断 D I (原数値)

(D I)	年 月	2016 12	2017 1	2	3	4	5
合計		48.0	46.7	46.4	48.4	48.9	48.3
家計動向関連		45.4	44.2	43.3	46.5	47.0	45.9
小売関連		42.4	42.7	41.4	42.9	43.8	43.7
飲食関連		49.2	42.1	40.5	49.7	46.7	46.9
サービス関連		49.7	47.2	46.8	52.5	52.7	50.0
住宅関連		47.0	46.8	47.1	46.8	50.0	46.1
企業動向関連		51.2	48.7	49.9	49.3	49.8	50.9
製造業		50.8	49.3	49.1	48.4	49.7	48.9
非製造業		51.6	48.3	50.8	50.7	50.0	52.8
雇用関連		58.5	59.4	59.8	59.6	60.1	58.2

図表 29 景気の現状水準判断 D I (各分野計)(原数値)

(D I)	年 月	2016 12	2017 1	2	3	4	5
全国		48.0	46.7	46.4	48.4	48.9	48.3
北海道		45.3	47.3	47.2	48.0	48.0	50.9
東北		45.4	44.9	42.8	46.2	46.8	45.1
関東		46.1	44.3	44.2	46.5	47.1	47.0
北関東		43.1	40.9	43.9	43.6	45.3	44.8
南関東		48.0	46.3	44.3	48.2	48.2	48.3
東京都		49.6	47.0	45.8	49.3	50.9	50.9
東海		49.1	48.8	49.6	49.7	49.8	48.9
北陸		51.3	51.0	51.1	52.9	51.9	52.1
近畿		49.4	48.1	47.2	49.4	49.4	49.6
中国		50.6	47.4	47.9	49.6	50.0	50.1
四国		43.5	42.5	44.1	47.0	48.3	43.9
九州		51.6	47.3	46.1	48.4	51.1	47.7
沖縄		51.3	59.0	59.2	58.8	57.1	55.6

(注) 景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

(参考2) 区分変更に伴う参考D I等

有効回答率

	調査客体	有効回答客体	有効回答率
東北(新潟除く)	189人	174人	92.1%
北関東(山梨、長野除く)	129人	122人	94.6%
甲信越	92人	85人	92.4%

図表30 現状判断D I (季節調整値)

(D I)	年	2017					
	月	12	1	2	3	4	5
東北(新潟除く)	2016	48.4	48.4	48.6	44.9	45.1	45.1
北関東(山梨、長野除く)	2016	50.9	47.3	48.2	45.6	47.7	47.2
甲信越	2016	50.6	47.2	47.2	43.3	46.6	46.2

図表31 先行き判断D I (季節調整値)

(D I)	年	2017					
	月	12	1	2	3	4	5
東北(新潟除く)	2016	48.8	47.2	48.7	46.9	46.1	46.4
北関東(山梨、長野除く)	2016	50.2	46.5	48.3	49.2	50.1	48.1
甲信越	2016	48.0	49.4	45.7	48.4	46.6	50.4

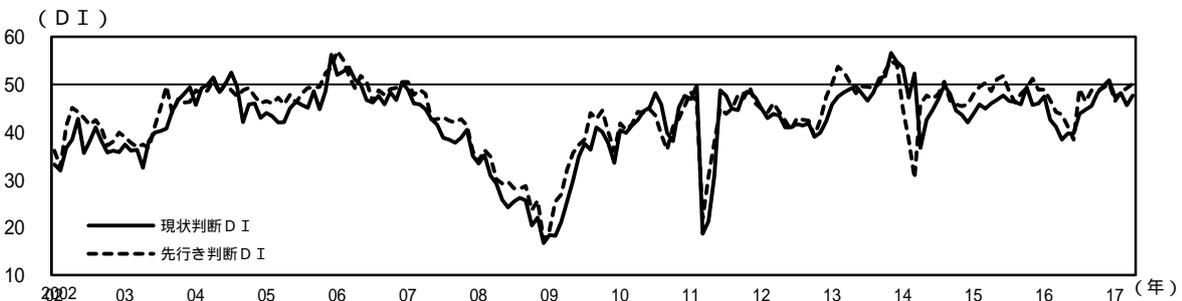
図表32 現状水準判断D I (季節調整値)

(D I)	年	2017					
	月	12	1	2	3	4	5
東北(新潟除く)	2016	46.0	46.5	44.5	43.1	44.9	43.2
北関東(山梨、長野除く)	2016	45.7	43.8	46.5	42.6	46.4	45.3
甲信越	2016	42.7	45.0	44.9	38.9	41.6	41.1

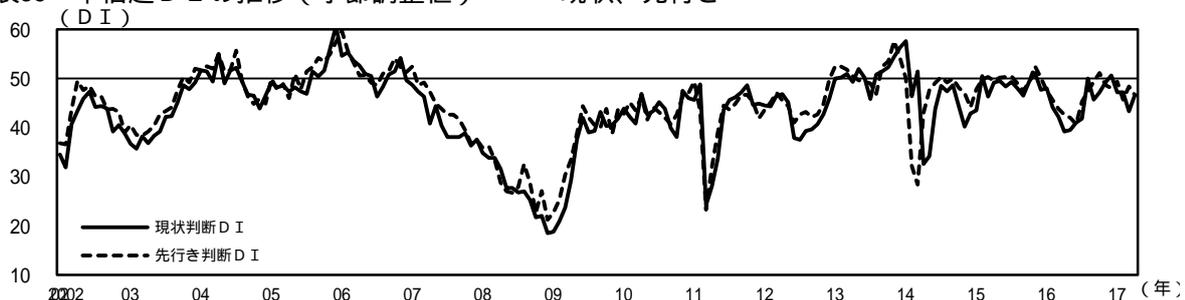
図表33 東北D I (新潟除く)の推移(季節調整値) 現状、先行き



図表34 北関東D I (山梨、長野除く)の推移(季節調整値) 現状、先行き



図表35 甲信越D Iの推移(季節調整値) 現状、先行き



図表36 現状判断D I (原数値)

(D I)	年	2016	2017				
	月	12	1	2	3	4	5
東北(新潟除く)		47.6	46.5	46.2	48.9	47.5	47.8
北関東(山梨、長野除く)		50.2	46.2	47.9	47.9	49.8	48.6
甲信越		48.3	44.1	45.1	46.3	50.0	48.8

図表37 先行き判断D I (原数値)

(D I)	年	2016	2017				
	月	12	1	2	3	4	5
東北(新潟除く)		47.4	48.2	50.0	47.8	47.2	48.4
北関東(山梨、長野除く)		47.8	47.0	48.5	49.6	52.2	51.2
甲信越		44.9	48.6	47.7	50.6	49.1	52.9

図表38 現状水準判断D I (原数値)

(D I)	年	2016	2017				
	月	12	1	2	3	4	5
東北(新潟除く)		45.3	44.6	42.6	46.3	46.7	45.1
北関東(山梨、長野除く)		45.3	42.3	45.1	45.0	47.0	45.9
甲信越		41.0	40.7	42.2	42.0	43.6	43.2

甲信越

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連			・前年と比べると来客数は半減しているが、ゴールデンウィークを中心に多くの人が集まっている(商店街)
				・天候に恵まれたゴールデンウィークから始まった5月は、その後も天候が安定し、順調な来客数と売上となっている。高齢者の来場が多い(ゴルフ場)
		×		・特に週末や祭日の来客数が減少傾向にある(スーパー) ・常連客の来店回数が、そろって極端に減っている(一般レストラン)
	企業 動向 関連			・同業他社を含め、当地方でも全体的に安定した仕事を確保しているようである(電気機械器具製造業)
		×		・製造業の景況感が改善している。半導体製造関連企業で受注増の動きがみられるほか、自動車関連も底堅く推移している(金融業) ・過去にないほどの生産減少で、商品が動いておらず、工場休業日を1日増やすかどうかを検討しているなど、業界全体が思わしくない(食料品製造業)
	雇用 関連			・求人数は前年同月より増えているが、景気の先行きが不透明なため、求人誌に有料で募集広告を掲載する企業は少ない(求人情報誌製作会社)
その他の特徴 コメント				：4月にしばらく暇な時期があり心配したが、5月は良くなったのでほっとしている。来客数がかなり多くなっており、宴会の動きも良い(スナック) ：夜の動きはやや悪い。日によって違うが現状は前年比102%ぐらいである(タクシー運転手)
先行き	家計 動向 関連			・エアコンや季節商材の動きは多少出てきている。ただし、買換え需要が主で新規購入はごくわずかである。商品単価が上昇すると良いが、客の財布のひもはまだまだ緩んではない(一般小売店[家電])
				・隔年で開催されているモータショーによる、自動車の購買意欲喚起に期待している(乗用車販売店)
	企業 動向 関連			・主要取引先からの受注見込が大変厳しく、どう展開していけばよいのか不透明である(窯業・土石製品製造業)
				・雇用、所得環境の改善を背景に、実質賃金の増加がプラス要因に働くことを期待している(食料品製造業)
	雇用 関連			・企業の採用意欲は依然として高いものの、ミスマッチによる人手不足の状況が続いている。設備投資に対しては、必要な人員が確保できるか慎重さがうかがえる(職業安定所)
その他の特徴 コメント				：ボーナスに関する情報は、決して良い話ではないが、猛暑予報のなか、夏物の仕入を増やすと話す小売店もある(新聞販売店[広告]) ：予約が好調であった部門に停滞感がみられている。受注が不調である部門は、相変わらず大幅な伸びのない状態のため、結果として、先行きの見通しが悪くなっている(都市型ホテル)